

「進行肺がん患者の化学療法終了はいつ考えるべきか」 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成29年5月19日 ～ 平成30年12月31日

〔研究課題〕

進行肺がん患者の化学療法終了はいつ考えるべきか

〔研究目的〕

進行肺がん患者の薬物療法終了の理由を明らかにすることです。

〔研究意義〕

化学療法を適切に施行し適切な時期に中止することにより、がん患者のQOLを保証することができるようにしたいと考えています。

〔対象・研究方法〕

対象の方は、2014年の1年間に抗がん剤の最終投与が行われた進行肺がんの方です。

他には、進行・再発肺癌で1種類以上の抗がん剤の治療を受けた方、抗がん剤の最終投与が2014年1月1日～12月31日までの方などになります。

また、術後補助化学療法を受けられた方は除外となります。

研究方法は、観察研究です。カルテに残されている記録からデータを抽出しまとめます。

- 調査項目：組織型、診断日、がん薬物療法開始日、レジメン数、最終投与レジメン名、最終投与レジメン開始日、最終投与レジメンのサイクル数、最終投与レジメンの効果、最終投与レジメンの有害事象、がん薬物療法最終投与日、投与終了決定日、投与終了決定日の患者背景（年齢、性別、PS、家族構成、就労の有無、症状）、投与終了理由、投与終了のインフォームドコンセントの有無・説明内容、投与終了後の経過、最終転帰（2016年6月1日現在）

〔研究機関名〕

帝京大学医学部内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報保護法に基づき、対象者の個人情報を厳格に保護致します。

例えば、調査結果から個人が特定できないように匿名化（名前やID番号を任意の番号に置き換え、個人が特定できないようにすることです。）し、結果は数値によって統計的に扱い、個々の回答や個人の情報を外部に出さないように致します。そして、回収したデータは一定期間保存した後、機密書類として廃棄致します。さらに、得られた調査結果は、啓発活動の基礎資料として活用する予定ですが、内容に個人情報は含みません。

〔その他〕

後ろ向き症例集積研究であり、対象者に医療費が発生することはありません。したがって、健康保険については、該当なしになります。

対象となる方で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者 : 市川 靖子 帝京大学医学部内科学講座 講師

住所 : 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL : 03-3964-1211 (代表) [内線 7942]